

新宮山彦ぐるーぷ第2364回

熊野修験春峰第3回奥駈行のサポートと接待

◇実施日 5月 8日(木) 事前荷揚げ協力

5月10日(土) 行仙宿宿泊対応

5月11日(日) 持経宿で接待と平治宿点検

事前荷揚げ 5月8日(木) 晴

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、阪口雄二、濱野兼吉 4名

熊野修験；角聖史、田代真平、森奈良好、杉山忠英、坂本淳子、

小山益生・佳子、松本邦子 8名

例年、熊野修験の行仙宿宿泊に際して事前の荷揚げ協力に出向いている。今回も水約100リッター、ガソリン10リッターや食材などの段ボール箱が7、8個の荷物があつた。午前9時、登山口に集結しモノレール荷台に荷物を載せる。最近モノレールのご機嫌が悪いので、祈るようにキーを回したところ、エンジンはずんなりとかかりヤレヤレだ。終点に着き、すぐに荷物を降ろした。山彦のメンバーだと終点まで歩いて30分以上かかっているが、熊野修験サポーターの皆さんは健脚揃いで早々に着いた。手分けして荷物を担ぎ小屋へ向かうが、12名の大人数なので往復することなく小屋まで運び上げることが出来た。運んだ荷物を管理棟と小屋とに分けて収納。本番の10日、11日は雨予報で、特に玉置神社をスタートする10日の午前中は確実に雨が降るようなので、雨対策を協議し、

玄関先と小屋に入った所の土間にブルーシートを敷き、履物は外で脱いでいただくようにした。また、濡れた衣服を干す場所や女性が着替える場所などを決めて、その準備も行った。壊れていたトイレ便座も青木君が修理してくれて使えるようになっていたことを確認。一通り準備ができたので昼食とした。食後は毛布の枚数を確かめて、マキ造りなどを行ってから下山した。
(記：沖崎)



登山口で



水やガソリンを小屋に



昼食

熊野修験29名が行仙宿に宿泊

5月10日(土) 雨のち曇

午前10時半、登山口に着くと熊野修験サポーターの殆どの人が到着済みだった。早い人は午前9時に着いたそう。荷物はモノレールに積まれていたが、まだ到着していない人が数名あり、全員が揃うのを待った。待っていた人も到着し、11時過ぎに登りだした。

終点には先に登っていた人たちが待ち受けており、すべての荷物を運んで行った。12時過ぎにお昼の弁当を頂き、その後はサポートに徹する。「これはどうしたらいいのか」とか「こんなものはどこにあるか」など、すぐに呼ばれるので小屋を離れられない。田代君に発電機の扱いを教え、以後の操作をお任せした。便槽の汲みだし中の森さんに呼ばれ、柄杓が折れて先が落ちてしまったと告げられた。覗いてみたが沈んでしまったらしく何も見えなかった。暫くして発電機の様子を見に行ったところ、発電機小屋で柄杓のスペアを見つけて森さんに手渡した。午後3時前、日帰りの6名が下山。3時半に夕食の弁当が登山口に着くので、モノレールで登山口に降りた。時間通りに弁当が着き、終点まで運んだ。終点には7人が待っていて全部を運んで行った。



小雨の中

行仙宿に着く

便槽の汲みだし中

雨は止んだが風が強く、体感温度は12℃位だ。午後4時を過ぎ、そろそろ一行が到着するだろうと、迎えに行くことになった。八大

金剛童子の石碑に着くと一行が勤行を始めるところだった。すぐに引き返し、小屋の皆に到着を伝えた。



八大金剛童子で勤行

お堂前、全員で

夕食

午後5時ちようど、一行29名が行仙宿に到着。落伍者は無く、足取りも揃っていた。お堂で勤行し、続いて関伽行、5人が行仙宿水場に降り、あとの24人はモノレール終点のペットボトルを小屋まで運んだ。弁当を運んできた前川さんは落伍者引き取りの為、行仙宿まで登ってこられたが、落伍者は無く一行が到着後に下山された。午後6時半から夕食、7時過ぎにテーブルを片付けて寝床を準備する。智英君はお堂で寝るといので、お堂にあった合板2枚を70cmの幅に切って即席のベッドを作った。午後7時25分、皆の寝場所が確保されたのを見届け行仙宿を離れて池原に向かった。サポーターの女性は翌未明から朝食の準備をするため管理棟に。小山さんはテントを小屋東の犬走に張って休まれた。30人を超える人が横になると、足の踏み場もないほどになっていた。

5月11日(日)

晴

午前5時に池原を出て登山口に向かった。晴れたが、まだ風が強く、早朝なので寒さを感じる。一行29名はもう出発しているので、行仙岳に登るくらいまではかなり寒いことだろう。



毛布の整頓



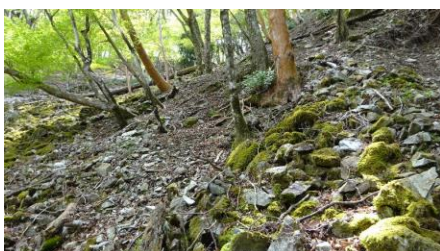
持ち降ろす物の荷造り



下山

午前6時15分に行仙宿着。玄関の温度計は10℃だった。熊野修験サポーターの方々は片付けを始めていた。田代君は持経宿に向かうためすでに下山していた。サトウのごはんを温め朝食を頂く。暖かい味噌汁もあって、落ち着いて食事ができた。掃除機で掃除を始めたが、発電機の電気がすぐに切れてしまう。エンジンは動いているが、インバーターの警告灯が点灯して100Vが出力されていない。リセットはエンジンを停止する以外になさそうなので一旦エンジンを止めて再び起動すると警告灯は消えて掃除機も使えるようになった、がしばらく使っていると、また電気がストップする。長

時間発電機を使うとインバーターの過熱で保護回路が働くのかもしれない。午前8時20分、片付けも終わりごみ等を持って下山。モノレール荷台はほぼ満載だった。



笠捨山捲き道に行く

中止して奥駆道へ

行仙宿に戻る

午前9時、登山口で皆さんと別れ再び小屋へ向かった。笠捨山捲き道の崩落箇所を確認に向かったが、葛川辻までの中間地点で時間切れ、昼食も持っていないので崩落箇所未確認のまま引き返した。行仙宿で一人、捲き道から奥駆道に登ってすぐに一人と遭遇、どちらも逆峰で持経宿から出発したようだ。

午後1時前に池原に着いて、かなりの湯のレストランで昼食、食後は広間の畳の上で一時間ほど仮眠して前鬼に向かった。前鬼で五鬼助さんに挨拶し、一行の到着を待った。大日岳の切れたクサリは、植平さんが岳良さんと一緒に持ってきてお堂に置かれていた。6人ほどが出迎えに登っているようで、15時過ぎに天狗山通過と連絡があった。まだかなり時間があるので車で休んだ。藤原君と坂野君

が降りてきて、もうすぐ到着と知らせてくれた。午後6時少し前、法螺貝の音と共に一行が到着。遅れる人もなく全員元氣そうだった。お堂で勤行の後、解散帰宅した。遠方からの参加者は小仲坊で一泊するそうだ。

(記：梶野)



無事に前鬼到着



お堂で勤行



全員で

熊野修験接待と持経宿、平治宿連休後の点検

◇実施日 5月11日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、阪口雄二、大江加予子・徳子、高階鈴子・美根子 7名

熊野修験；田代真平、東信介 2名

5月9日の夕方から10日の早朝にかけて、かなりの雨が降り、200mm程の降水量があったと思われる。9日夜に湯川君から連絡があり、釈迦ヶ岳太尾登山口に向かう中谷集落の先で土砂崩れがあり、奥吉野発電所が孤立。平谷から玉置神社へ向かう村道が土砂崩れの

ため通行止め。玉置神社へはR425の小川経由か南側の玉置口からしか行けない。R425の浦向、滝間が雨量規制通行止めになっているとの悪い知らせが届いた。これを聞いて池郷林道は大丈夫かと真つ先に頭に浮かんだが、行かなければならない、行くしかない。と早朝の5時半に5人で出発し、一時間後池原のスポーツ公園に着く。



池原で協議中



熊野修験一行と出会う



持経宿で接待

皆で相談の結果、池郷林道を進めるだけ進み、倒木や崩土で車の通行ができない場合は、弁当を担いで歩き、午前9時までに持経宿に着くかを判断することになった。9時までに着くことが出来なかった場合は下山して前鬼に向かい、太古の辻まで登って天狗山か奥守岳くらいまで行くしかないとした。この場合は弁当を熊野修験サポーターの方々に託すことになる。午前6時45分、池郷林道に続く村道に入ってしまった。枯れた小枝が何本も落ちていて、その都度車を降りて除去した。3〜4km進んだところで5mほどの

長さの太い木が道を塞いでいる。幸い枯れている木だったのであまり重くはなく、4〜5人で動かせ、山側に排除して通行できた。雨よりも強風の影響が大きかったようだ。動かせない倒木もあると思うので、チェーンソーは必携だ。30分強で林道ゲートに着く。ここまで来たらあと4.5km。歩いてても一時間ちよつとで持経宿に行けるのでホットする。ゲートの先も普段と変わらない状況で、4度ほど車を停めて落石を除けたが、1時間弱で持経宿に到着した。田代君は前鬼に早く行く用事があるとのことで、ゲート前にデポしたハイエース迄東さんが送っていった。持経宿に着いて、すぐにお堂の整理やお供えの交換などを行う。湯川君に平治宿に行ってもらい、志納金の回収と小屋の確認をお願いした。接待の準備も終わり一行の到着を待っていると、午前9時少し前、法螺貝の音が聞こえてきた。千年檜で勤行しているようだ。10分ほど経って29人全員が持経宿に到着。お堂で勤行が始まった。皆さん元気で、用意したスイカ、菓子、コーラも殆ど残っていない。昨日と変わって風も収まり絶好のお天気になっていた。最長老の小原さん一人がここから下山された。若い方が多く、顔見知りが少ない。無事前鬼に下山されることを祈りつつ、出発を見送った。一行は25分ほど滞在された。平治宿に行った湯川君が帰ってくるのも早かったので後片付けを始めた。大半を女性陣にお任せし、沖崎、湯川の二人で便槽の汲みだしを行った。30分ほどの作業で、沖崎54杯、湯川76杯を汲みだした。これでトイレはしばらく放置しても大丈夫だ。後片付けを終え、軽く食事をした後下山した。昨年までは行仙宿で翌日の昼食弁当を渡していたが、今年から持経宿で手渡すことになった。高温多湿になる時期で食中毒などを心配しての事のようにだが、池郷林

道通過のリスクもあるので、来年以降はどうしたものかと思案している。
(記：沖崎)

平治宿の点検

◇実施日 5月11日(日) 晴れ

◇参加者 湯川 一郎

持経宿から千年檜へ向かい幟を立てていると、すぐに阪口さんと須崎さんがお堂のお供えなどに来てくれた。

中又尾根分岐を過ぎ、「千日刈峰業 第一回 53.6.9-10」のあるところで、熊野修験一行とすれ違った。その際、青岸渡寺の角さんが私を皆さんに紹介してくれました。私からは池郷林道は倒木などがあり少し時間はかかったが、皆さんが持経宿に到着する前に着けて良かったとお話させていただいた。

平治宿の室内はとてもきれいに保たれていた。お正月用のお酒の空き瓶を回収、電灯の確認、小屋外周を見てまわり、持経宿に引き返す。

千年檜で幟を回収して、持経宿に着くと、熊野修験の皆さんがスイカなどで水分補給されているところだった。
(記：湯川)